

### Ⅲ. 幼児保育学科の概要

近年、核家族化・少子化・働く女性の増加など、子ども・子育てをめぐる環境は大きく変化してきている。子どもの育ちだけでなく、家族・家庭をも支援する保育者の役割は今後ますます重要となる。松本短期大学幼児保育学科では、豊かな人間性と高い専門性をそなえた「保育および幼児教育のケアスペシャリスト」の養成をめざしている。2年間の学びの中で、幅広く専門的知識と技術を身につけ、学外実習などを通して保育実践力を磨き、卒業時には幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得することができる。

#### 1. 教育目標

幼児保育学科では、本学の建学の精神、3学科の教育理念・教育目標より、以下の教育目標を掲げている。

1. 保育及び幼児教育に携わる専門職業人としての自覚・責任感・倫理観を育成する。
2. ケアスペシャリストとして、人と信頼関係を築くことができる豊かな人間性を育成する。
3. 保育及び幼児教育に携わる専門職業人に必要な専門知識・技術・思考能力を育成する。
4. 地域における保育及び幼児教育の多様化、個別化するニーズに応える実践能力を育成する。

#### 2. アドミッション・ポリシー（入学生の受け入れ方針）

豊かな人間性を備えたケアスペシャリストをめざし、専門知識と技術を身につけ、地域社会に貢献できる人を育成する。それに基づき、幼児保育学科では、以下のような学生を求める。

- 1) 子どもの育ちと生活に興味・関心がある
- 2) 誠実に人と向き合える
- 3) 人の話をよく聴き、自分の考えを伝えることができる
- 4) 学びや体験の機会に意欲的に取り組むことができる
- 5) 入学後の学修に必要な基礎学力がある

#### 3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

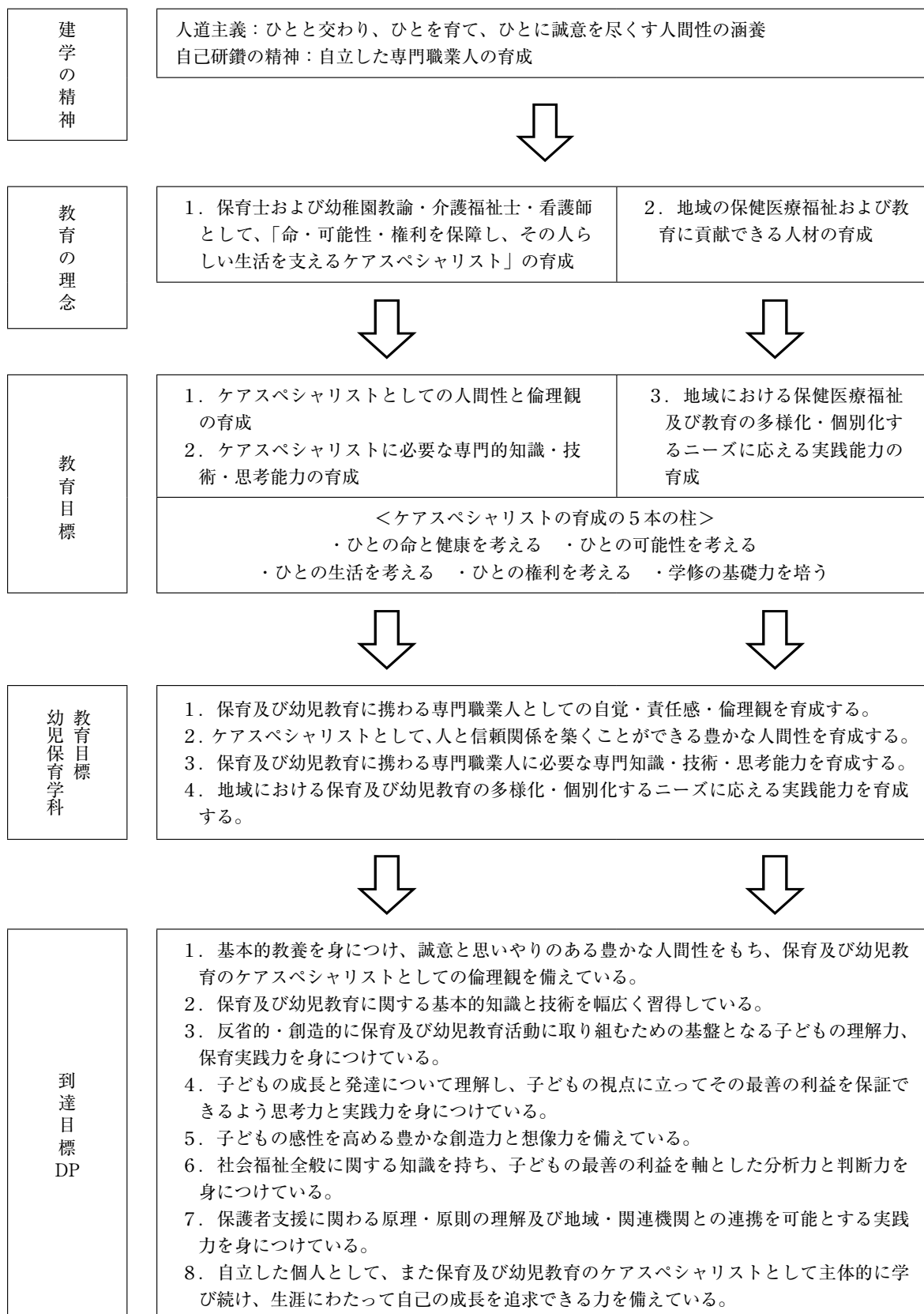
本学科に2年以上在学し、本学の「建学の精神」「教育理念」「教育目標」に基づいて設定した学科の授業科目を履修し、規定する必要単位を修得した学生は、次の到達目標に達した人材であると設定し、「短期大学士」の学位を授与する。

## 1) 到達目標

幼児保育学科では、教育目標を受ける形で、以下の到達目標を定めている。

- (1) 基本的教養を身につけ、誠意と思いやりのある豊かな人間性を持ち、保育及び幼児教育のケアスペシャリストとしての倫理観を備えている。
- (2) 保育及び幼児教育に関する基本的知識と技術を幅広く習得している。
- (3) 反省的・創造的に保育及び幼児教育活動に取り組むための基盤となる子どもの理解力、保育実践力を身につけている。
- (4) 子どもの成長と発達について理解し、子どもの視点に立ってその最善の利益を保証できるよう思考力と実践力を身につけている。
- (5) 子どもの感性を高める豊かな創造力と想像力を備えている。
- (6) 社会福祉全般に関する知識を持ち、子どもの最善の利益を軸とした分析力と判断力を身につけている。
- (7) 保護者支援に関わる原理・原則の理解及び地域・関連機関との連携を可能とする実践力を身につけている。
- (8) 自立した個人として、また保育及び幼児教育のケアスペシャリストとして主体的に学び続け、生涯にわたって自己の成長を追求できる力を備えている。

## 2) 建学の精神と到達目標との関係



#### 4. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

教育目標とそれに関わるディプロマ・ポリシーに鑑み、保育及び幼児教育に関わる課題を、理論と実践の両面から思考し、また実践できる能力を養うため、以下の方針に沿ってカリキュラムを編成している。

授業科目は、教養基礎科目と専門教育科目があり、これを2年間に配当している。

- (1) 教養基礎科目は、本学の目標である「命・可能性・権利を保障し、その人らしい生活を支えるケアスペシャリストの育成」という観点から、3学科共通の教養基礎科目の枠組みに基づき編成している。
- (2) 専門教育科目は、【保育の基礎】【子どもの成長と発達】【感性を高める想像力と創造力】【児童家庭福祉】【保護者支援】【保育実践力】【教養力】【自己形成】の各分野から配置している。

##### 1) 到達目標と教育内容の関係

◎ = DP 達成のために特に重要な事項 ○ = DP 達成のために重要な事項

幼児保育学科DP	<p>1：基本的教養を身につけ、誠意と思いやりのある豊かな人間性を持ち、保育及び幼児教育のケアスペシャリストとしての倫理観を備えている。</p> <p>2：保育及び幼児教育に関する基本的知識と技術を幅広く習得している。</p> <p>3：反省的・創造的に保育及び幼児教育活動に取り組むための基盤となる子どもの理解力、保育実践力を身につけている。</p> <p>4：子どもの成長と発達について理解し、子どもの視点に立ってその最善の利益を保証できるよう思考力と実践力を身につけている。</p> <p>5：子どもの感性を高める豊かな創造力と想像力を備えている。</p> <p>6：社会福祉全般に関する知識を持ち、子どもの最善の利益を軸とした分析力と判断力を身につけている。</p> <p>7：保護者支援に関わる原理・原則の理解及び地域・関連機関との連携を可能とする実践力を身につけている。</p> <p>8：自立した個人として、また保育及び幼児教育のケアスペシャリストとして主体的に学び続け、生涯にわたって自己の成長を追求できる力を備えている。</p>
----------	---

◎ = DP 達成のために特に重要な事項  
○ = DP 達成のために重要な事項

	授業科目の到達目標	DPとの関係							
		1	2	3	4	5	6	7	8
生命倫理	1) 自分自身のいのちを見つめ、身近にあるいのちのあり方からいのちについて感じるができる。 2) 感じたいのちを子どもたちにどのように伝えることができるかを考え、実践できる。	◎	○			○			
健康と運動Ⅰ	毎日の生活習慣（食事・休養・運動）の積み重ねがその人の現在と将来の健康状態につながっており、生涯にわたる健康づくりにとってきわめて重要な時期である学生時代に、その重要性を理解し、実践へとつなげることができる。	◎			○				○
健康と運動Ⅱ	レクリエーションの意義を理解して、条件や状況にあったレクリエーションゲームを選択したり創造したりし、その楽しさを幅広い対象者に提供できる実践力を身に付ける。	◎				○			
こころの科学	1) 子ども理解に役立つ心理学の知見や、ひとの心の仕組み・機能に関する基本的知識を理解し、説明できる。 2) 子どもを対象とした心理臨床の基礎知識を理解し、説明できる。	○			◎				
暮らしの中の憲法	1) 基本的人権の重要性を説明できる。 2) 憲法がどのような場面でどのような意義を持つのか、具体的に考えられる。	◎			○				
キャリア形成Ⅱ	現在の雇用状況や労働環境等と具体的な就職活動の流れを掴み、思い描いてきたキャリアデザインを再考しながら、自分の能力を発揮するためにどのような知識や能力を身につければ良いのかを考え、実践する力を身に付ける。	◎							○

	授業科目の到達目標	D P との関係							
		1	2	3	4	5	6	7	8
地域交流実践	1) 地域社会の共助メカニズムを理解し、保育者の役割を考えることができる。 2) 地域社会の福祉・保育領域のニーズと問題点を調査し、それに応じた活動を企画・実践できる。	◎							○
英語表現	1) 基礎的な英会話を行うことができる。 2) 保育現場を想定した英語表現ができる。	◎		○		○			
情報処理演習	1) Word・Excel・PowerPointの基本操作を行うことができる。 2) インターネット利用のマナーと倫理を理解できる。	◎	○						○
暮らしの中の数学	1) 身の周りにある数学に気づき、数学的手法や思考法を活用できる。 2) 身の周りにある数学に関心を持ち、数学の思考法を生活へ活用する姿勢や力を習得できる。	◎	○						
キャリア形成 I	1) 学習・実習への取り組み、就職活動、社会人に必要な基本的知識・技能を理解している。 2) 書き言葉・話し言葉、レポートの書き方、手紙の書き方、電話のかけ方、基本的マナー等の基本的知識を理解し、実行できる。	◎	○						○
保育原理	保育の意義及び現代社会における保育の現状と課題について考え、今日の保育を形成してきた保育の思想・制度・実践の歴史の変遷を知る。さらに保育所保育指針の基本的理解の上に保育の営みそのものを学び、子ども観、保育者の役割について理解する。		◎		○				○
教育原理	1) 教育の意義、目的地及び子ども家庭福祉等との関連性、乳幼児期の教育の特性を理解できる。 2) 教育の思想と歴史の変遷、教育法規や行政の基礎と国内外の教育制度を理解できる。 3) 教育の実践と生涯学習社会の教育の現場と課題を理解できる。		◎						
子ども家庭福祉	現代社会における子どもの家庭福祉の意義と歴史の変遷及び子どもの人権(子どもの権利条約)擁護について理解している。また、子ども家庭福祉の制度や実施体系、現状と課題について理解している。				○		◎	○	
社会福祉	現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷及び社会福祉における子ども家庭支援の視点について理解している。また、社会福祉の制度や実施体系等、相談援助、利用者の保護に関わる仕組みについて理解している。						◎	○	
子ども家庭支援論	1) 子ども家庭支援の意義・目的、保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義とそれに関わる基本事項を理解している。 2) 子育て家庭への支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と、子ども家庭支援の現状・課題を理解している。		○					◎	
社会的養護 I	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷及び子どもの人権擁護(子どもの権利条約)を踏まえた社会的養護の基本について理解している。また、社会的養護の制度や実施体系等、関係する専門職等について理解している。				○		◎	○	
保育者論	1) 保育者の役割と倫理、保育士の制度的位置づけ、保育士の専門性として保育士の資質・能力と養護及び教育の一体的展開を理解できる。 2) 保育者の連携・協働及び資質向上のためのキャリア形成について理解できる。		◎						○
保育・教育の心理学	1) 子どもの心身の発達および学習の過程について理解している。 2) 各発達段階における心理的特性、養護と教育の一体性や子どもの主体的学びを支える指導について理解している。		○		◎				
子ども家庭支援の心理学	1) 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を身につける。 2) 家族・家庭の意義や機能について理解している。 3) 子育て家庭をめぐる現状と課題について理解している。				◎		○	○	
子どもの理解と援助	1) 子ども理解に関する知識と基本的態度を身につける。 2) 子どもを理解する具体的方法を理解し、子どものつまずきに対応する基本的な力を身につける。		○	◎	○				
子どもの保健	1) 子どもの心身の健康、保健活動の意義・目的を説明できる。 2) 子どもの身体的発育・発達と保健、健康状態の把握の仕方、予防方法を説明できる。 3) 他職種間連携のもとでの適切な対応の仕方を説明できる。				○	◎			
子どもの食と栄養	1) 子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基本的知識、発育・発達と食生活の関係、家庭や児童福祉施設での食事と栄養について説明できる。 2) 食育の基本と内容について、保育現場を想定して実践できる。 3) 特別な配慮を要する子どもの食と栄養を理解し、基本的内容を実践できる。				○	◎			

	授業科目の到達目標	D P との関係							
		1	2	3	4	5	6	7	8
教育課程の編成と評価	1) 保育の計画と評価を理解できる。 2) 保育所保育指針等における保育の目標と計画の基本的考え方、全体的な計画と指導計画の関係性及び作成について理解できる。 3) 保育士及び保育所の自己評価と保育所児童保育要録等について理解できる。		◎	○	○				
保育内容 総論	1) 保育の内容、保育所の機能、保育の現代的課題を説明することができる。 2) 保育所保育指針、事例検討を学び保育の全体構造を説明できる。		◎	○	○				
保育内容の指導法Ⅰ (健康・表現)	幼児の心情、認識思考及び動き等を視野に入れた保育構想が説明できる。指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。模擬保育とその振り返りを通して保育を改善することができる。領域「健康」、「表現」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。		○	○	○	◎			
保育内容の指導法Ⅱ (環境・人間関係)	領域「人間関係」及び「環境」のねらい及び内容を踏まえて、乳幼児の発達や特性を理解し、長期的な資質・能力の育ちを見据えて、総合的に保育を展開していくための知識・技術を具体的に体験し、修得する。		◎	○	○				
保育内容の指導法Ⅲ (言葉)	1) 子どもが言葉を獲得していく過程を理解する。 2) 言葉の発達に不可欠な大人の働きかけや環境について説明できる。 3) 言葉を育む児童文化財について学び、保育にとりいれる方法を説明できる。		◎	○	○				
子どもと音楽表現	幼児の音楽表現の姿や発達が説明できる。音楽表現の基礎的な技能、知識を学び、感じる・みる・聴く・楽しむことを通して作り上げたイメージを豊かに表現することができる。また身のまわりのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした音楽表現ができる。		◎			○			
子どもと造形表現	1) 子どもたちが安心して自己表現をし、感性と創造性を豊かにするための活動を展開できる。 2) 造形表現活動に必要な道具の扱い方と手法について理解し、指導することができる。		○	○	○	◎			
子どもと健康	心身の健康に関する領域である「健康」について、保育のねらいや内容を明らかにするとともに、乳幼児の心と体の発達・発達の特性や身体の成長に関わる今日的な問題点などを理解できる。		◎	○	○				
子どもと環境	領域「環境」の指導で必要となる好奇心や探求心などの感性を養い、保育内容に関する知識及び技術を身につける。特に領域「環境」の指導の基盤になる現代の乳幼児を取り巻く人的・物的・情報環境及び社会の事象との関わりの発達過程について学ぶ。		◎	○	○				
子どもと人間関係	現代の乳幼児の人間関係の育ちに影響を及ぼしている要因について理解し、保育において保障すべき保育内容に関する知識を学ぶ。特に保育の基盤となる関係発達の視点について知り、他者との関係や集団との関係の中で人と関わる力が育つ過程を理解する。		◎	○	○				
子どもと身体表現	身体表現に必要な幼児の発達が説明できる。身体表現の基礎的な技能、知識を学び身体表現することの楽しさが実感できる。身のまわりのものを身体の諸感覚で捉え、素材の特性を生かした身体表現ができる。協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、豊かな身体表現ができる。		◎			○			
乳児保育Ⅰ	1) 保育の意義、目的と役割、歴史の変遷及び現状と課題を理解できる。 2) 3歳未満児の発達・発達を踏まえた保育内容と運営体制を理解できる。 3) 乳児保育における連携・協働（職員間、保護者、地域関係機関）について理解する。		◎		○		○	○	
乳児保育Ⅱ	1) 3歳未満児の発達・発達過程や特性を踏まえた援助や関わりについての基本的な考え方、養護及び教育の一体性を踏まえた3歳未満児の生活や遊び、保育環境とその配慮、及び係る保育計画について具体的に理解できる。		○	○	◎				
子どもの健康と安全	1) 保健的観点を踏まえた保育の環境構成や子どもへの援助方法を実践できる。 2) 健康・安全管理、体調不良・感染症等への具体的な対応・対策方法を実践できる。 3) 健康・安全管理の実施体制を説明できる。			○	◎		○		
特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	1) 障害児保育の理念や歴史を概説できる。 2) 特別な支援を必要とする子どもの特性・心身発達等に応じた援助や配慮について説明できる。 3) 子どもの特性・心身発達等に応じた保育計画の作成、保育方法、家庭支援や関係機関との連携・協働について説明できる。			○	◎		○		

	授業科目の到達目標	DPとの関係							
		1	2	3	4	5	6	7	8
社会的養護Ⅱ	社会的養護の基礎的・具体的な内容としての施設養護及び家庭養護の実際について理解している。また、社会的養護における計画・記録・自己評価、相談援助の方法・技術、子ども虐待の防止と家庭支援について理解している。			○	○		◎	○	
子育て支援	1) 保育士の専門性を背景とした保護者支援の特性と展開方法を理解できる。 2) 保育士が行う子育て支援について、実践事例などを交えながら、様々な場面や対象に即した支援内容と方法を理解し、基本技術を扱うことができる。			○				◎	
いのちと環境	1) 子どもの成長・発達における自然環境の意義について、説明できる。 2) 子どもと自然とのかかわりを想定した保育実践力を身につける。			◎					
保育・教育相談	1) 子どもの心理的特質や教育的課題について理解している。 2) カウンセリングの理論・基本的な技法を身につける。			○	◎			○	
子どもの音楽Ⅰ	子どもの発達段階を理解した上で、保育現場の音楽表現に必要なピアノ演奏技術を習得し、子どもの目線に合った音楽表現ができる。また幼児教材に含まれているコードネーム等の音楽知識も理解し、現場に合わせた即興演奏、弾き歌いの歌唱表現ができる。		◎			○			
子どもの音楽Ⅱ	保育現場での総合的な音楽表現活動に対応するためにリズム楽器を用い、ピアノを中心としたアンサンブル演奏ができる。また子どもの発達に必要な音楽教材の選び方や、教材の制作を通し、より良い音楽環境を作ることができる。			○		◎			
子どもと運動遊び	鬼遊びやボールなどの用具を使った運動遊びなど子どもが日常的に行っている遊びを多く体験し、子どもの運動機能の発達について理解を深めながら、遊びを引き出す保育について理解できる。		◎	○	○				
子どもと絵本	1) 子どもの発達に応じた絵本の選びかたを学び、実習や体験などの実践に取り入れることができる。 2) 絵本が出来上がる過程を知り、作者が子どもに伝えたいものは何かを考えたり、読み方や与え方を説明できる。		○	◎		○			
ことばと表現	1) 子どもの発達段階に応じた児童文化財の活用方法を習得する。 2) 表現の多様性を理解し、子どものことばと表現を引き出す表現方法・実践力を身につける。			○	○	◎			
生涯スポーツⅠ	「それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる」ために、一般に普及しているスポーツ種目の学習を通して、実践力を身に付ける。					◎		○	
生涯スポーツⅡ	「それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる」ために、校内環境や季節の特徴に応じたスポーツ種目の学習を通して、実践力を身に付ける。					◎		○	
子どもと造形表現論	1) 特性や発達段階と造形表現の相関を説明できる。 2) 表現の多様性を理解し、文化的側面から子どもの造形表現を考えることができる。	○	○		○	◎			
幼児教育の方法	乳幼児の心身の発達と、環境を通して養護及び教育を一体的に展開する保育の特性を理解した上で、養護を保障するために保育者が行う援助や態度の基本、遊びや生活が豊かに展開される保育の方法を具体的に学ぶ。		◎	○					
幼児保育特講	1) 保育の知識・技術を仲間へ伝えあい、応用することができる。 2) 保育実践に伴う協働作業へ積極的に取り組むことができる。 3) 実践の場で、保育者の立場を意識しながら子どもや保護者と関わることができる。			○				◎	
教育実習指導	幼稚園・認定こども園における教育を理解し、心構えを持ち自己課題を明確にする。実習記録の書き方や指導計画の立て方について理解し、実践する。実習での自己を振り返り、自己課題を追求する。			◎	○			○	
教育実習	幼稚園・認定こども園の保育の実際、保育者の仕事について理解を深める。観察・参加・責任実習等、具体的な経験を通して、理論と実践を繋ぐ幼児教育の内容・方法や、保育者に求められる資質や専門性について学ぶ。			◎	○			○	
保育実習指導Ⅰ	1) 実習施設の役割と機能が説明できる。 2) 子ども（利用者）の最善の利益、守秘義務などについて説明できる。 3) 実習の計画・実践・記録・省察の方法や内容について、具体的に理解する。 4) 事後指導を通して今後の学習課題を明確にする。		○	◎	○		○		
保育実習Ⅰ	1) 保育所・児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 2) 子ども（利用者）との関わり、子育て支援の実際を理解する。 3) 保育の計画・実践・記録および自己評価を通して、保育士の業務内容や職業倫理を説明できる。		○	◎	○		○		

	授業科目の到達目標	D Pとの関係								
		1	2	3	4	5	6	7	8	
保育実習指導Ⅱ	1) 既習科目や、これまでの教育・保育実習、園交流などでの学びを基に、指導計画が立案できる。 2) 実践を可能とする保育の知識・具体的技術を身につける。 3) 保育の今日的課題に目を向け説明することができる。		○	◎	○			○	○	
保育実習Ⅱ	1) これまでの学びの上に、実際の場面を通して、子どもの姿の捉え方、子ども理解について学び、適切な子どもとの関わりや援助の仕方を身につける。 2) 保育の計画・実践・記録・省察の繰り返しの中から、自己評価に基づく自己の課題を説明できる。		○	◎	○			○	○	
保育実習指導Ⅲ	子ども（利用者）の状態に応じた適切な関わりや保育の全体計画に基づく具体的な計画と実践などを理解している。また、実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にできる。		○	◎	○			○	○	
保育実習Ⅲ	保育所以外の児童福祉施設の役割や機能について実践を通して理解している。とくに、家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を修得している。		○	◎	○			○	○	
保育・教職実践演習（幼稚園）	1) 保育に必要な専門知識及び技術、総合的な判断力、倫理観等の習得・形成の状況と、自己課題を説明できる。 2) 保育実践に求められる基礎的資質・能力を身につけている。			◎						
基礎ゼミナール	1) 保育・幼児教育関連領域の中から、興味・関心の深い学習課題を見出す。 2) ゼミナールごとに取り組む課題へ主体的・能動的に学修する姿勢を身につける。									◎
応用ゼミナール	1) 保育・幼児教育関連領域の中で興味・関心のある研究テーマについて、課題を探求することができる。 2) 主体的・能動的に研究し、まとめ、発表することができる。									◎



## 2) 教育の特色

### (1) 豊かな人間性と専門性を育むカリキュラム構成

到達目標を達成するために、3学科共通の枠組みである「ひとの命と健康を考える」「ひとの可能性を考える」「ひとの権利を考える」「ひとの生活を考える」「学修の基礎力を培う」の5つの柱を土台とし、教養基礎科目を構成している。

5つの柱	ねらい
ひとの命と健康を考える	ひとの生命の根本問題について考え学び、ひとの体の仕組みと働きを理解し、健康的な生活を送るための、運動の基礎理論と実践を学び、生命の尊重と尊厳を理解する豊かな人間性を持った人材の養成を目指した教育を行う。
ひとの可能性を考える	人間の心と行動の基礎を学び、人間の行為の原理を理解し、ことば・造形・音楽・身体という様々な表現方法を使って、自らの思いや考えを伝え、豊かな人間関係を築くことができる人材の養成を目指した教育を行う。
ひとの生活を考える	人間と環境の共生の視点を養い、地域を構成する一員として、地域の暮らし、文化、歴史からひとの生活を学び、地域社会の発展に貢献できる人材の養成を目指した教育を行う。
ひとの権利を考える	福祉の基本理念である人権保障や日常生活上必要な法律を学び、現代社会に対する理解を深め、的確に対応できる判断力を備えた人材の養成を目指した教育を行う。
学修の基礎力を培う	英語表現や情報処理の基礎と技術を修得し、さらに継続発展させ、異文化間コミュニケーションを行ったり、情報を活用したりして社会生活に生かすことができる基礎教育を行う。

### (2) 少人数制の指導

#### ① チューター制の実施

幼児保育学科では、一日も早く入学生が安心して学校生活を送れるように、チューター制によるきめ細かな導入教育を行っている。チューター制の目的は、本学科の専任教員が、それぞれ10名前後の学生を受け持ち、担当学生の授業や学習課題、学校生活など全般に関する相談相手となって、新しい学校生活への円滑な導入を図ることにある。チューター制が敷かれる期間は、入学後の2、3ヶ月間である。それは、この短い期間が、入学生一人ひとりが、それまでとは異なる生活・学習環境に慣れ、新たな友人関係や教員・学生関係を築いて、キャンパスの中に自らの確かな居場所を見つける上で、最も重要な時期にあたると考えられるためである。

最近、不安や悩みをかかえたまま入学する学生が少なくない。小さなことでも何か心配することや困っていることなどがある時は、まずチューターに相談してほしい。

#### ② ゼミナールによる学生指導

学生は、チューター制によって学校への定着が一定程度得られたら、専任教員全員が受け持

つ各ゼミナール(以下、ゼミと略記する)へ、それぞれ10名前後ずつ配属し直されることになる。専任教員それぞれは、自己のゼミに固有のテーマを掲げている。各ゼミのテーマや活動内容については「基礎ゼミナール」の授業初期に、説明と見学の機会を設ける。学生は、各ゼミの説明や見学を通して希望するゼミを申し出る。学生の希望や運営上の都合を考慮しながら調整し、所属ゼミを決定する。

ゼミは、授業科目「基礎ゼミナール」「応用ゼミナール」の運営単位であると同時に、実習巡回指導時などの基本単位ともなる。また、学園祭をはじめ、様々な行事、レクリエーション活動など、様々な場面でも機能している。1年次に所属希望ゼミを申し出る際は、ゼミのテーマ、ゼミの先輩、そして、ゼミの教員に関して理解に努め、よく検討した上で希望を出してもらいたい。

### (3) 実技系の充実

#### ① 体育系授業科目

「主体的に体を動かす遊びを中心とした身体活動を、幼児の生活全体の中に確保していくことは大きな課題である」として平成24年に「幼児期運動指針」(文部科学省)が策定された。

変化の激しいこれからの社会を生き抜く力としての「健やかな体」を育てる意識を持つことは、保育者として非常に重要となる。

幼児期の運動の意義や在り方について常に問い直しながら、多様な遊びや運動に着目していく。既習のスポーツと幼児期の遊びとのつながりを考え、鬼ごっこや固定遊具での運動、伝承遊びなど幅広く体験できるようにする。

#### ② 音楽系授業科目

現場のニーズを検討し、実習、就職試験に役立つよう、また就職後の現場に対応できるよう、内容を考慮している。更に、それぞれが音楽を生涯楽しむための指針となる内容も加えている。

本学では入試に音楽の試験がないため、学生の音楽的能力にはバラツキがある。そこで、一人ひとりの希望に応えられるよう、ピアノの授業においては一人ひとりの能力に合わせ、個人レッスンの形態をとっている。その他、音楽表現、身体表現の授業と合わせ、幼児教育に必要な知識を身につけられるよう授業を展開している。

#### ③ 造形系授業科目

造形活動に必要な道具・画材の扱い方と、素材、技法についての知識を習得する。また、人の発達段階に応じた表現の移り変わりと、各々の段階に応じた支援・介入のありかたを理解し、多様な条件下にある人へのアートアプローチを実践していくため素地をつくる。分けても、子どもたちが安心して自己表現できる場をつくり、一人ひとりの表現を受容していけるマインドの涵養に力を注いでいる。

#### (4) 充実した実習

##### ① 教育実習

幼稚園教諭は、幼児期の人間形成に携わる重要な仕事であり、子どもの生命や安全、育ちに関して職責を負っている。その職責を果たすためには、幼児期の人間形成に関する専門的な知識と実践的な技能、そして幅広い教養と豊かな感性といった必要な資質を身につけていくことが求められる。教育実習は、近い将来において幼稚園等で、その職務を十分に果たしていくことができるように、事前に学んだ専門的な知識を基盤に、幼児期の子どもの理解を深め、成長発達を援助できる具体的な方法や技能を現場で経験的に学習すること、そして、幼児教育のケアスペシャリストとして必要な自覚と態度を養うことを目的としている。

##### ② 保育実習（保育園）

すべての学生は、学校のなかで、保育者になるための様々な学科目を学ぶ。それは、保育原理、幼児教育の方法、保育・教育の心理学、子どもの健康と安全の他、体育、ピアノ、合奏、絵画、身体表現といった実技などである。そうした知識や技術を学ぶことは、保育者になるために必要不可欠なものである。しかし、保育の営みは、子どもたちのいる保育園で成り立っている。そのため、保育園実習で、将来保育者となっていく学生が生きた子どもと出会うことが大切である。そして、学校で学んできたことを現実の子どもの生活のなかで、どのように生かせるのかを学び、保育士の仕事を理解することが求められる。さらに、自分自身の実習テーマをもって実習に臨み、そこから実習の過程と結果を記録し、また、考察して、今後の課題を得るのである。

したがって、保育園実習の意義・目的は、学校での学びを机上の空論にすることなく、子どもがいる保育園の環境のなかで、主体的に活動し、真の学びを主観的ではなく客観的に獲得することであるといえる。

##### ③ 保育実習（施設）

保育実習（施設）では、習得した教科全体の知識・技能を基礎として、これらを総合的に実践する応用的能力を養い習熟することを目的とする。

具体的には、施設実習の意義や目標を理解し、児童福祉施設や障害者支援施設等において対人支援職が果たす役割や職務内容について学習する。また、保育実習指導において実習中の心構えや指導の受け方、実習記録の書き方、保育実技を活かした活動など、具体的な学習課題等について理解・準備をしたうえで実習に取り組むこと。

#### (5) 現代的課題の追究

##### ① 幼児保育特講

社会的要請や最新の学問動向に対応した授業を、専任教員のみならず、他大学の教員など外部の人材を積極的に活用しながら展開していく。

授業については、幼児保育学科全体が企画・運営に当たるが、本学科の特色を最も強く打ち出す科目という点から学科長がそのコーディネーターかつ責任者を務める。

## (6) 地域社会との連携

### ① 地域交流実践

学生が主体的に地域交流活動を企画・実践し、地域の方々から福祉の実際を体験的に学ばせていただく。学校生活や実習では学びきれない事柄を経験し、広い視野と社会性を身につけ、「子どものスペシャリスト」に求められていること、また、それを学ぶことの意義を再確認する。

### ② その他のボランティア活動および地域との関わり

本学では、「地域交流実践」を受講できるほか、ゼミ活動、もしくは個人でボランティアを行える機会を多く設けている。社会の一員であるということを忘れずに、積極的にボランティアなどの活動に従事していくことを期待する。

## (7) キャリアサポートの充実

### ① キャリア形成Ⅰ・キャリア形成Ⅱ

「キャリア形成Ⅰ」「キャリア形成Ⅱ」では、学生が自立した個人として、また保育や幼児教育のスペシャリストとして生きていくための第一歩を踏み出せるよう、専門的職業的な知識や情報、技術などを幅広く習得する。幼児保育学科で取得可能な幼稚園教諭免許や保育士資格を活用して、将来、どのような職業を選択していくことができるのか。また生涯プランをたてるためにどのような知識や考え方を必要とするのか。自らのキャリアデザインやライフデザインを描くためのヒントを得る。

### ② キャリア教育セミナーや模擬試験の実施

公務員（中級）試験や私立幼稚園の採用試験は、早いところでは例年2年次の5月に始まり、7月および9月がピークとなる。そこで、幼児保育学科では、以下のような機会を計画し、個々に応じた学習支援・就職支援を行う。

#### a キャリア教育セミナー

国語や英語、時事・社会常識、自然科学などいくつかの分野から、当該年度の学生の学力状況等を鑑みて必要と思われる分野を選択し、各専門の講師を招いてセミナーを開講する。自身の現時点での学力を確かめると高校までの学び直しを行うことを目的とし、全1年生と希望する2年生を対象に実施する。

#### b 模擬試験等の実施

各種就職試験対策を意識した「SPI形式模擬試験」や「一般教養模擬試験」などを1年次に全員実施する。また、希望者には一般教養試験の他に専門試験を加えた「保育士・幼稚園教諭就職模擬試験」を実施し、直後の公務員試験に備える。

## (8) 成績不振者への対応

幼児保育学科では、成績が振るわない学生（GPA2.0未満）には、ゼミ単位を基本としながら個別学習時間の確保や個別学習課題を与えるなどして、学習意欲や成績の向上に向けた学習支援をしている。具体例として以下のような内容がある。また、必要に応じて、各科目担当教

員、教育課程委員会や学生支援委員会と連携を図る。

- ・ 各自の試験後の成績を受けて、それに向かうまでの学習の仕方や学習時間についての振り返りと今後の目標設定
- ・ SPI 対策問題集や SPI 模擬試験の学び直しによる基礎教養知識の定着
- ・ 就職模擬試験の受験の奨励

# 5. カリキュラムマップ

## 別紙2

到達目標 (D P)	教養力	保育の基礎	保育実践力	子どもの成長と発達	感性を高める創造力と想像力	児童家庭福祉	保護者支援	自己形成
	基本的教養を身に付け、誠意と思いやりのある豊かな人間性をもち、保育者としての倫理観を備えている。	保育及び幼児教育に関する基本的知識と技術を幅広く習得している。	反省的・創造的に保育及び幼児教育活動に取り組むための理解力、保育実践力を身につけている。	子どもの成長と発達について理解し、子どもの視点に立ってその最善の利益を保障できるように思考力と実践力を身につけている。	子どもの感性を高める豊かな創造力と想像力を備えている。	社会福祉全般に関する知識を持ち、子どもの最善の利益を軸として分析力と判断力を身につけている。	保護者支援にかかわる原理・原則の理解及び地域・関連機関との連携を可能とする実践力を身につけている。	自立した個人として、また保育及び幼児教育のケアアスペシヤリストとして主体的に学び続け、生涯にわたって自己の成長を追求できる力を備えている。
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span>← 卒業</span> <span>2 年 次 履 修</span> <span>←</span> </div>								
後 期	○生命倫理 ○健康と運動 I	保育・教職実践演習 (幼稚園) 保育実習指導 II 保育実習指導 III	保育・食と栄養 特別な支援を必要とする子どもの理解と方法 保育・教育相談	生涯スポーツ II 子どもと造形表現論	子どもと造形表現 子どもと音楽 II ことばと表現	子どもと音楽 II 子どもと造形表現 ことばと表現	子育て支援	応用ゼミナール (通年)
前 期	○健康と運動 II ◇地域交流実践	いのちと環境 子どもと絵本 保育実習指導 I 保育実習指導 II 保育実習指導 III	子どもと食と栄養 特別な支援を必要とする子どもの理解と方法 保育・教育相談	子どもと造形表現 子どもと音楽 II ことばと表現	子どもと造形表現 子どもと音楽 II ことばと表現	子どもと音楽 II 子どもと造形表現 ことばと表現	子ども家庭支援論	応用ゼミナール (通年) 幼児保育特講
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span>←</span> <span>1 年 次 履 修</span> <span>←</span> </div>								
後 期	△暮らしの中の数学 ◇キャリア形成 II	保育者論 保育内容の指導法 II (環境・人間関係) 子どもと人間関係 乳児保育 I 幼児教育の方法	子どもの理解と援助 教育実習指導 保育実習指導 I	□こころの科学	保育内容の指導法 I (健康・表現) 生涯スポーツ I	子ども家庭福祉 社会的養護 II		基礎ゼミナール (通年)
前 期	◎暮らしの中の憲法 △キャリア形成 I △英語表現 △情報処理演習	保育原理 教育課程の編成と評価 保育内容の指導法 III (言葉) 子どもと言葉表現 子どもと健康 子どもと環境 子どもと身体表現 子どもと音楽 I 子どもと運動遊び	保育・教育の心理学	保育・教育の心理学		社会福祉 社会的養護 I		基礎ゼミナール (通年)
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <span>←</span> <span>入学</span> <span>←</span> </div>								
入学の受け入れ方針 (AP)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの育ちと生活に興味・関心がある</li> <li>・誠実に人と向き合える</li> <li>・人の話をよく聴き、自分の考えを伝えることができる</li> <li>・学びや体験の機会に意欲的に取り組むことができる</li> <li>・入学後の学修に必要な基礎学力がある</li> </ul> <p style="text-align: right;">○ひとの命と健康を考える □ひとの可能性を考える ◇ひとの生活を考える ◎ひとの権利を考える △学修の基礎力を培う</p>							

## 6. 教育課程と資格の取得及び卒業要件

### 1) 教育課程

幼児保育学科の教育課程は、学則第17条に定める「別表第1」のとおり構成されている。

別表第1 松本短期大学幼児保育学科教育課程

授業科目の区分等	授 業 科 目	授業形態	単 位 数			時間数	備 考	
			開設単位	必修	選択			
教養基礎科目	ひとの命と健康を考える	生命倫理	講義	2		2	30	教免必修
		健康と運動Ⅰ	講義	1	1		15	
		健康と運動Ⅱ	実技	1	1		30	
	ひとの可能性を考える	こころの科学	講義	2		2	30	
	ひとの権利を考える	暮らしの中の憲法	講義	2		2	30	
	ひとの生活を考える	キャリア形成Ⅱ	講義	1	1		15	
		地域交流実践	演習	1		1	30	
	学修の基礎力を培う	英語表現	演習	2	2		30	
		情報処理演習	演習	2		2	30	
		暮らしの中の数学	講義	2		2	30	
	キャリア形成Ⅰ	講義	1	1		15		
小 計			17	6	11	285	合計10単位以上	
専門教育科目	保育原理	講義	2	2		30		
	教育原理	講義	2	2		30		
	子ども家庭福祉	講義	2		2	30	保育士必修	
	社会福祉	講義	2		2	30	保育士必修	
	子ども家庭支援論	講義	2		2	30	保育士必修	
	社会的養護Ⅰ	講義	2		2	30	保育士必修	
	保育者論	講義	2	2		30		
	保育・教育の心理学	講義	2	2		30		
	子ども家庭支援の心理学	講義	2		2	30	保育士必修	
	子どもの理解と援助	演習	2	2		30		
	子どもの保健	講義	2		2	30	保育士必修	
	子どもの食と栄養	演習	2		2	30	保育士必修	
	教育課程の編成と評価	講義	2	2		30		
	保育内容 総論	演習	1	1		15		
	保育内容の指導法Ⅰ(健康・表現)	演習	2	2		30		
	保育内容の指導法Ⅱ(環境・人間関係)	演習	2	2		30		
	保育内容の指導法Ⅲ(言葉)	演習	1	1		15		
	子どもと音楽表現	演習	1	1		15		
	子どもと造形表現	演習	1	1		15		
	子どもと健康	演習	1	1		15		
	子どもと環境	演習	1	1		15		
	子どもと人間関係	演習	1	1		15		
	子どもと身体表現	演習	1	1		15		
乳児保育Ⅰ	講義	2		2	30	保育士必修		
乳児保育Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修		
子どもの健康と安全	演習	1		1	15	保育士必修		
特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	演習	2	2		30			

授業科目の区分等	授 業 科 目	授業 形態	単 位 数			時間数	備 考
			開設単位	必修	選択		
専門教育科目	社会的養護Ⅱ	演習	1		1	15	保育士必修
	子育て支援	演習	1		1	30	保育士必修
	いのちと環境	演習	2		2	30	保育士選択
	保育・教育相談	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	子どもの音楽Ⅰ	演習	2	2		30	
	子どもの音楽Ⅱ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと運動遊び	演習	2	2		30	
	子どもと絵本	演習	1		1	15	保育士選択
	ことばと表現	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅠ	演習	1		1	15	保育士選択
	生涯スポーツⅡ	演習	1		1	15	保育士選択
	子どもと造形表現論	講義	2		2	30	保育士選択
	幼児教育の方法	講義	2		2	30	教免必修・保育士選択
	幼児保育特講	演習	2		2	30	保育士選択
	教育実習指導	演習	1		1	30	教免必修
	教育実習	実習	4		4	180	教免必修
	保育実習指導Ⅰ	演習	2		2	60	保育士必修
	保育実習Ⅰ	実習	4		4	180	保育士必修
	保育実習指導Ⅱ	演習	1		1	15	保育士：Ⅱ又はⅢ 選択必修
	保育実習Ⅱ	実習	2		2	90	
	保育実習指導Ⅲ	演習	1		1	15	
	保育実習Ⅲ	実習	2		2	90	
	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2	2		30	
小 計			84	32	52	1,680	
研究演習	基礎ゼミナール	演習	2	2		60	
	応用ゼミナール	演習	2	2		60	
小 計			4	4	0	120	
合 計			105	42	63	2,085	

※幼児保育学科の卒業最低単位数 必修42単位 選択20単位 計62単位

内、教養基礎科目 必修6単位、選択科目の中から2科目以上4単位 計10単位

専門教育科目・研究演習 必修36単位、選択16単位、計52単位

※保育士：必修及び選択必修を除く、保育士選択科目から2単位以上を選択



## 2) 卒業の要件

卒業するためには、以下の要件を満たすことが必要である。

別表第5 卒業に必要な履修科目及び単位数

### 幼児保育学科

学 科 目 区 分	学 科 目 数 及 び 単 位 数
教 養 基 礎 科 目	別表第1の当該欄の内、必修科目以外に2科目以上、合計10単位以上
専 門 教 育 科 目	別表第1の当該欄の内、必修科目以外に6単位以上、合計48単位以上
研 究 演 習	別表第1に指定する4単位
合 計	合計62単位以上

## 3) 教員の免許（幼稚園教諭2種免許）を得るための要件

幼稚園教諭の免許を取得するためには、上記の卒業要件を満たした上で、下記の要件を満たすことが必要である。

別表第4 教員の免許を得るための要件

学 科 目 区 分	学 科 目 数 及 び 単 位 数
教 養 基 礎 科 目	別表第1の当該欄の内、必修単位及び教免必修単位を含む10単位以上
専 門 教 育 科 目	別表第1の当該欄の内、必修単位及び教免必修単位を含む41単位以上
研 究 演 習	別表第1に指定する4単位
合 計	上記の指定を含め、62単位以上

科目区分	各科目に含めることが必要な事項	単位数	左に対応して開設されている教科目	設置単位数		
				必修	選択	
					教免必修	選択
領域及び保育内容の指導法に関する科目 (情報機器及び教材の活用を含む。)	健康		子どもと健康	1		
	人間関係		子どもと人間関係	1		
	環境		子どもと環境	1		
	表現		子どもと音楽表現	1		
			子どもと造形表現	1		
			子どもと身体表現	1		
			保育内容 総論	1		
			保育内容の指導法Ⅰ (健康・表現)	2		
			保育内容の指導法Ⅱ (環境・人間関係)	2		
			保育内容の指導法Ⅲ (言葉)	1		
小 計		12	小 計	12		
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)		教育原理	2		
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校への対応を含む。)		保育者論	2		
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		保育・教育の心理学	2		
	・特別な支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	2		
	・教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育課程の編成と評価	2		
道徳・総合的な学習の時間等 教育相談に関する科目	・教育の方法及び技術 (情報機器及び教材の活用を含む。)		幼児教育の方法	2		
	・幼児理解の理論及び方法		子どもの理解と援助	2		
	・教育相談 (カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。) の理論及び方法		保育・教育相談		2	
教育実践に関する科目	教育実習		教育実習指導		1	
			教育実習		4	
	教職実践演習		保育・教職実践演習 (幼稚園)	2		
小 計		19以上	小 計	23		
第66号 施行規則 の6に定め る科目	日本国憲法		暮らしの中の憲法		2	
	体育		健康と運動Ⅰ	1		
			健康と運動Ⅱ	1		
	外国語コミュニケーション		英語表現	2		
情報機器の操作		情報処理演習		2		
小 計		8	小 計	8		
合 計		39以上	合 計	43		

#### 4) 保育士資格を得るための要件

保育士資格を取得するためには、学則に定める幼児保育学科の所定単位数以上を必ず修得した上で、「松本短期大学保育士養成課程に関する細目」に規定する単位を修得しなければならない。

なお、保育士という名称を使用して業務を行うためには、都道府県に登録をしなければならない。卒業前に登録手続きの説明会を別途行うので留意すること。

#### 松本短期大学保育士養成課程に関する細目

(目的)

第1条 学則第27条第2項に基づきこの細目を定める。

(所在)

第2条 本学は長野県松本市笹賀3118番地に位置する。

(修得単位数)

第3条 保育士資格取得のための最低必要修得単位数は別表のとおりである。

(保育実習)

第4条 幼児保育学科における保育実習は、関係法令の定めに基づき、以下のとおりとする。

- (1) 保育実習指導Ⅰ 2単位 学内における実習指導とする。
- (2) 保育実習指導Ⅱ 1単位 学内における実習指導とする。
- (3) 保育実習指導Ⅲ 1単位 学内における実習指導とする。
- (4) 保育実習Ⅰ 4単位 保育所における実習2単位及び収容施設等における実習2単位とする。
- (5) 保育実習Ⅱ 2単位 保育所における実習を行うものとする。
- (6) 保育実習Ⅲ 2単位 保育所以外の社会福祉関係諸法令の規定に基づき設置されている施設で実習を行うものとする。

第5条 保育実習指導Ⅱ・保育実習Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ・保育実習Ⅲは、そのいずれか二科目を必ず履修するものとする。

第6条 保育士資格を取得するためには、本細目及び別表に定められた要件を充たすほか、本学学則別表第5に定められた卒業要件を充たすことが必要となる。

(履修の認定条件)

第7条 幼児保育学科においては、出席時間数が学則に定める時間数の3分の2に満たない者については、履修の認定及び認定試験の受験を認めない。

別表

系列	教科目	左に対応して開設されている教科目		授業形態	時間数	単位数		最低必要 修得単位数		
						必修	選択			
告示による教科目	体育	健康と運動Ⅰ		講義	15	1		2単位		
		健康と運動Ⅱ		実技	30	1				
	外国語	英語表現		演習	30	2		2単位		
	その他	生命倫理		講義	30		2	6単位以上		
		こころの科学		講義	30		2			
		暮らしの中の憲法		講義	30		2			
		キャリア形成Ⅰ		講義	15	1				
		キャリア形成Ⅱ		講義	15	1				
		暮らしの中の数学		講義	30		2			
		情報処理演習		演習	30		2			
地域交流実践		演習	30		1					
合計					285	6	11			
告示による教科目	保育の本質・目的に関する科目	保育原理	保育原理	講義	30	2		54単位		
		教育原理	教育原理	講義	30	2				
		子ども家庭福祉	子ども家庭福祉	講義	30	2				
		社会福祉	社会福祉	講義	30	2				
		子ども家庭支援論	子ども家庭支援論	講義	30	2				
		社会的養護Ⅰ	社会的養護Ⅰ	講義	30	2				
		保育者論	保育者論	講義	30	2				
	小計					210	14			
	保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学	保育・教育の心理学	講義	30	2				
		子ども家庭支援の心理学	子ども家庭支援の心理学	講義	30	2				
		子どもの理解と援助	子どもの理解と援助	演習	30	2				
		子どもの保健	子どもの保健	講義	30	2				
		子どもの食と栄養	子どもの食と栄養	演習	30	2				
		小計					150		10	
	保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価	教育課程の編成と評価	講義	30	2				
		保育内容総論	保育内容 総論	演習	15	1				
		保育内容演習	保育内容の指導法Ⅰ (健康・表現)		演習	30	2			
			保育内容の指導法Ⅱ (環境・人間関係)		演習	30	2			
			保育内容の指導法Ⅲ (言葉)		演習	15	1			
		保育内容の理解と方法	子どもと音楽表現		演習	15	1			
			子どもと造形表現		演習	15	1			
			子どもと健康		演習	15	1			
			子どもと環境		演習	15	1			
			子どもと人間関係		演習	15	1			
		子どもと身体表現		演習	15	1				
		乳児保育Ⅰ	乳児保育Ⅰ	講義	30	2				
		乳児保育Ⅱ	乳児保育Ⅱ	演習	15	1				
		子どもの健康と安全	子どもの健康と安全	演習	15	1				
		障害児保育	特別な支援を必要とする子どもの理解と方法	演習	30	2				
		社会的養護Ⅱ	社会的養護Ⅱ	演習	15	1				
		子育て支援	子育て支援	演習	30	1				
	小計					345	22			
	保育実習	保育実習Ⅰ	保育実習Ⅰ	実習	180	4				
		保育実習指導Ⅰ	保育実習指導Ⅰ	演習	60	2				
	総合演習	保育実践演習	保育・教職実践演習 (幼稚園)	演習	30	2				
	合計					975	54			
	告示による教科目	保育の本質・目的に関する科目	保育に関する科目	いのちと環境	演習	30			2	必修4単位の他に、保育士選択科目から2単位以上計6単位以上
		保育の対象の理解に関する科目								
		保育の内容・方法に関する科目		保育・教育相談	講義	30			2	
				子どもの音楽Ⅰ	演習	30	2			
				子どもの音楽Ⅱ	演習	15			1	
				子どもと運動遊び	演習	30	2			
				子どもと絵本	演習	15			1	
				ことばと表現	演習	15			1	
				生涯スポーツⅠ	演習	15			1	
生涯スポーツⅡ				演習	15		1			
子どもと造形表現論	講義	30		2						
幼児教育の方法	講義	30		2						
幼児保育特講	演習	30		2						
保育実習	保育実習Ⅱ又は保育実習Ⅲ	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	実習 実習	90 90		2 2				
	保育実習指導Ⅱ又は保育実習指導Ⅲ	保育実習指導Ⅱ	演習	15		1				
		保育実習指導Ⅲ	演習	15		1				
合計					495	4	21			
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目			教育実習指導	演習	30		1	必修科目 4単位以上		
			教育実習	実習	180		4			
			基礎ゼミナール	演習	60	2				
			応用ゼミナール	演習	60	2				
合計					2,085	68	37	77単位以上		

## 5) 社会福祉主事任用資格

幼児保育学科卒業要件を満たすことにより、社会福祉主事任用資格が取得できる。

社会福祉主事は、社会福祉法第19条に定める社会福祉の基礎的資格であり、福祉事務所における現業員・査察指導員・老人福祉指導主事・家庭児童福祉主事・家庭相談員・母子相談員、各種相談所における知的障害者福祉司・身体障害者福祉司・児童福祉司、社会福祉施設における施設長・生活指導員等には、社会福祉主事任用資格が必要である。

社会福祉主事任用資格指定科目（1～6）のうち、3科目以上を履修することで任用資格となるので、本学の履修証明書または、成績証明書により、社会福祉主事任用資格の証明となる。

幼児保育学科教育課程において、社会福祉主事任用資格指定科目となるものは次のとおりである。

	科目名
1	子育て支援
2	社会福祉
3	子ども家庭福祉
4	保育原理
5	教育原理